

## 国立大学法人の図書館職員採用試験

荒川 佑蘭

2004（平成16）年の国立大学法人化にともなって、国立大学の職員採用試験が従来の国家公務員試験の適用外となったため、人事院が実施する国家公務員採用Ⅱ種試験「図書館学」が廃止された。その結果、国立大学法人等職員採用試験が開始され、図書館職員の採用は、「事務系」の図書という区分で実施されるようになった。この試験は、全国7地区の各実施委員会が行ない、採用も地区ごとに行なわれている。国立大学の法人化から18年経過し、国立大学法人等職員採用試験「事務系（図書）」は、安定運用の段階に入ってきた。この間、国立大学法人の図書館職員の採用試験を紹介した文献は時々発表されてきたが、国立大学法人の図書館職員採用試験を詳細に分析した研究は、十分に行なわれていない。

そこで、本研究では、国立大学法人の図書館職員採用試験の歴史、試験の概要をまとめた上で、国立大学法人等職員採用試験「事務系（図書）」（以下、国法（図書）と略す）の試験問題を分析し、採用時に国立大学法人の図書館職員に求められた専門的知識について分析・考察した。研究方法としては、文献調査、試験問題の分析調査を用いた。

研究の結果、以下の事柄が明らかになった。

- ・国法（図書）の試験は、全国を7地区（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に分けたブロックごとに実施されており、第1次試験で教養試験（多肢選択式）を行ない、第2次試験で専門試験と人物試験を実施している。
- ・国法（図書）の専門試験は、大学図書館の職員によって作成されており、図書館学概論、図書館資料論、資料組織論、資料利用論、図書館管理論、情報管理論に関する専門的知識が問われている。
- ・国法（図書）の17年分の試験問題（平成16ー令和2年度）を分析した結果、分野別出題件数は、①図書館資料論（110件）、②図書館学概論（85件）、③資料組織論（79件）、④情報管理論（40件）、⑤資料利用論（38件）、⑥図書館管理論（34件）の順番であった。
- ・国法（図書）の出題テーマでは、「学術情報の流通と各種資料」（35件）が最も多く、その中でもオープンアクセス・機関リポジトリに関する出題（13件）が多くなっている。次に、「目録法」（31件）、「レファレンス情報源、データベース」（26件）、「分類法」（26件）、「著作権法、公貸権」（22件）に関する問題が多く出題されている。
- ・国法（図書）のキーワードでは、「大学図書館」（31件）が最も多く、「電子ジャーナル」（20件）、「著作権法」（19件）、「機関リポジトリ」（16件）、等が頻出している。
- ・国法（図書）では、学術情報流通、目録法、分類法、レファレンス情報源に関する問題が多く出題されており、国内外の学術情報流通の動向、目録の記述や分類の付与のような、実際の業務で必要な知識も求められている。
- ・国法（図書）の出題形式では、「穴埋め（選択式）」（66件）、「穴埋め（記入式）」（64件）、「記述（文章）」（61件）、「選択」（60件）、「正誤判定」（57件）、「五肢択一」（50件）、「記述（用語）」（38件）、等が採用されている。
- ・国法（図書）では、大学図書館で求められる知識が幅広く出題されている。しかし、作問する際に出題しやすいテーマと出題しにくいテーマがあり、出題数も減少傾向にあるため、年度によって出題領域や出題形式に偏りが出ることが課題として挙げられる。

（指導教員 大庭 一郎）